

ひばり通信

訪問看護ステーションひばりが提供するフリーペーパーです

Toda Medical Group
戸田中央医科グループ
TMG

Vol.19
2019年11月発行

冬に多いウイルス性(感染性)胃腸炎に注意

急に嘔吐や下痢、腹痛の症状に襲われたら、まず疑うのは食中毒ではないでしょうか？しかし、その症状はもしかしたらウイルス性(感染性)胃腸炎かもしれません。冬に流行するウイルス性胃腸炎は、別名「胃腸風邪」とも呼ばれ、腹痛を訴えて病院にかかる方も多いかと思えます。咳や鼻水といったいわゆる風邪症状がなく、下痢や嘔吐などがある場合は、胃腸風邪＝ウイルス性胃腸炎の可能性が高いとされています。

ウイルス性胃腸炎の種類と特徴とは？

ウイルス性胃腸炎とは、ウイルスの感染によって胃腸に炎症を引き起こす疾患であり、下痢や嘔吐がその主症状となっています。また、ウイルス性胃腸炎の原因とされるウイルスには、ロタウイルス・ノロウイルス・アデノウイルスなどがあり、発生時期や症状にそれぞれ違いがあります。

ロタウイルス

主な症状

- ・下痢と嘔吐の他発熱も伴い、**重症化**する場合も多いです。
- ・白色で酸っぱい臭いのする水分を多く含んだ便が1日に何度も出ます。

激しい嘔吐

頻繁な下痢



潜伏期間

- ・2日～3日(長くても72時間以内)

治癒日数

- ・3日～8日

※再感染する場合があります。

ノロウイルス

主な症状

- ・下痢や嘔吐、吐気が主な症状です。軽い微熱が出る場合もあります。
- ・**感染力が強い**ために、集団感染を起こすことがあります。

吐気

嘔吐



潜伏期間

- ・1日～2日(半日程度の場合もあり)

治癒日数

- ・1日～2日

※後遺症の心配はありません

アデノウイルス

主な症状

- ・発熱、嘔吐、下痢、腹痛などの症状がでます。
- ・乳幼児期の胃腸炎による発熱は軽症で済む場合が多いです。

発熱

下痢・腹痛



潜伏期間

- ・5日～7日

治癒日数

- ・1週間～2週間

※腸重積・急性中垂炎の合併症に注意

ウイルス性胃腸炎の治療

とにかく
早めの受診を！

ウイルスによる胃腸炎に抗菌薬は無効ですので、いわゆる特効薬というものはありません。主な治療は、**胃腸炎の症状を緩和する対処療法**となります。嘔吐・下痢がひどい場合であれば、水分摂取を促したり、飲水もできなければ病院で点滴を行ったりします。また、下痢が辛いからといって下痢止めを服用する事はオススメしません。**胃腸炎の場合は下痢を止めることで胃腸炎の原因である菌を対外に排出することができず治りを遅らせてしまうことになるので、自己判断で下痢を止めないようにしましょう。**

1 食事

主食には卵を入れたお粥や煮込みうどんが消化によくおすすめ



2 水分

電解質や糖がバランスよく配合された経口補水液を飲もう



3 薬

下痢止め・吐気止めは必ず医師の指示の下、服用すること



〈お問合せ先〉

訪問看護ステーションひばり

〒359-0021 埼玉県所沢市東所沢1-11-6 イ・ストイツ102

☎ : 04-2951-3667

関連施設：東所沢病院